

---

# 僕と精霊の・・・冒険？

春夏秋冬

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕と精霊の・・・冒険？

### 【Nコード】

N2359BA

### 【作者名】

春夏秋冬

### 【あらすじ】

なんか時空の裂け目に入ってしまったらしい。  
着いた先はなんと異世界！もしかしたら宇宙のどこかの違う星かもしれないが……。そこには魔法があつて精霊がいた。なんか精霊と契約してしまった。

初めて書くので変なところには目をつぶってください。

## プロローグ(前書き)

初めて書きます。

いろいろな見苦しいところなどあると思います。

温かい目で見守ってください。

## プロローグ

「ここはどこだ・・・」

そんな事をつぶやいて男が起きた。

私はどんだけ寝てるんだと思いつながらその男を見た。

黒髪黒目のその男は身長が高くすらつとしていた。

しかし、弱弱い感じはせず引き締っていて何らかの運動をしているものだと思われる。

「どういうことだ？俺は確か学校に行くために・・・」

「記憶はある・・・と思う」

聞き取れたのはそれくらいだがいろいろつぶやいている。

そして男は立ち上がり体が思い通りに動くか確認している。

体の確認が終わったのか周りを見ている。

というかいつまで気づかないんだろう。

いい加減気がついて欲しい。

しかし男は、

「うつわどんだけ木でかいんだよ」

「神殿か・・・なんか神々しいな」

「というか腹減ったな・・・」

なんてことをつぶやいている。

その間もきょろきょろうつろしている。

もうそろそろ声をかけてもいいんじゃないか？  
というかもういいだろ。

よしかけよう。

そう思っけて口をひらいたとこで、

「あの〜声かけたほうがいいですかね・・・」

「・・・・・・・・・・」

という風に声をかけてきたので私は口を開けかけた状態で止まっけてしまった。

「なんかあまりの状況に頭がついてこなくてですね」

「無視しようと思ったのではなくてですね」

「人間突然未知に出会っけてしまっけて思考回路が停止するといっけて」

「・・・・・・・・・・」

なんてことを言っけているが私は息をおもいっけてきり吸い込み。

「気付いっけていたんなら早く声をかけなさいよ—————!!」

「声かけてくれなないと寂しいでしゅうが!—!!」

「そもそもねえ・・・・・・・・・・くどくど」

「くどくどくど」



## プロローグ（主人公目線）（前書き）

なんかコメントされるとすごくうれしい。

アドバイスとかお願いします。

## プロローグ（主人公目線）

今日もいつもどおりに寝坊した。

「うっわ、もう30分じゃねーか」

そう学校が45分からのにもう30分なんだ。  
しかもここから歩いて30分もかかる。  
走ってぎりぎりという感じなのに、

「まだ起きたばっかだよ！」

「くその後10分しかねえ・・・力に目覚めて欲しい」

「今までの最高記録を出すしかないのか」

なんてことをしている間に着替え終わるかばんも用意し終えた。  
朝食を食べる時間なんて当然ない。

「いつてきます」

当然返事はない。

家族は俺が小学6年の時に死んでしまった。

そのときはもうすごく泣いたね。

もう体の水分が全部なくなんじゃないやね？ていうくらい泣いたよ。



人生で一番泣いた日だったな。  
人生といってもまだ18年くらいしか生きてないが。

事故だったんだけどちょっと買い物行くからって言われて、

「あんたも行く？」

「べつにいいや」

ていうのがさいごだったな。

そのあとは、爺のともにもらわれた。

そのとき爺が体動かしていればいやなことなんかすぐに忘れるていう感じのことを言ってたさ。

泣いてる俺を無理やりひっぱていって体を鍛えさせられた。

ずっと体を動かしていると汗とか涙とかといっしょに悲しみも流れていく感じださ。

というか動かしていないとどんどん悲しくなってきた動き続けてたな。

そのあと気絶するように寝たんだっけか。

次の日になってさ実は夢でしただって言うのが一番よかったんだけどな。

でも夢じゃないんだと思って。

いつまでもうだうだしてられないなって。

まあその日から体を動かすのを習慣にして。

爺が剣道の師範で、爺にいろいろ教えられて大変だったな。

それからいつか爺に勝つてというのが自分の目標になったっけ。  
爺に勝てるようになったのが2年くらい前からだったからな。

親が死んだ後は大変だった。

爺がいなかったら今の自分はいないな。

爺には感謝しても仕切れないと思うよ。  
爺には体も心も鍛えられたなつと。

「よし、その角を曲がって・・・」

「えっ・・・・・・」

なんか空間が裂けてる！  
何じゃこりゃ。

「ってこれはやばいだろー!」

「止まらんぞー!」

吸い込まれるー!!

---

「ここはどこだ・・・」

「なんだここ・・・」

「どういうことだ？俺は確か学校に行くために・・・」

なんだ本当にどういうことだよ。  
夢遊病みたいなやつか？

「記憶はある・・・と思っ」

「夢遊病じゃなかったらだけど」

「角を曲がった時のが原因なんだろうな」

「くそっ！寝坊しなければ・・・」

「とりあえず立つか・・・」

とりあえず体が動くか確認しないと。

「いっちにいっちに」

よし問題ないな。

「ていうかいつもより調子がいいな」

「どうなってるか確かめないと・・・」

周りを見て・・・

「うっわどんだけ木でかいんだよ」

今まで見た木の10倍はあるんじゃないか？  
日本にこんな場所ないだろ・・・

「神殿か・・・なんか神々しいな」

「・・・って神殿でどういうことだよ」

本当に日本じゃないかも知れん・・・・・・・・・・  
ワンピースの空〇みたいな感じだな。

ぐ

「というか腹減ったな・・・」

「そういえば朝食食べる時間なかったんだよな・・・」

・・・さつきからなんかありえないものが視界に入ってたけど。

なんか透けてるし・・・

なんかそわそわしてるし。

声かけたくねー！。

でもかけたほうがいいんだろぅな・・・

「あの〜声かけたほうがいいですかね・・・」

「・・・・・・・・・・」

なんか口開けたまま固まってしまった・・・

「なんかあまりの状況に頭がついてこなくてですね」

「・・・・・・・・・・」

「無視しようと思ったのではなくてですね」

「・・・・・・・・・・」

「人間突然未知に出会ってしまおうと思っ回路が停止するといつか」

「……………」

あっ息吸い込んだ…………

「気付いていたんなら早く声をかけなさいよ————!!」

「うわっっっ!!」

「声かけてくれないと寂しいでしょうが!!」

まあ確かに…………

「そもそもねえ……………ぐどぐど」

「ぐどぐどぐど」

30分くらい怒られました…………

**プロローグ（主人公目線）（後書き）**

名前どうしようかなー！。

他の人ってどう決めてるんでしょうね？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2359ba/>

---

僕と精霊の・・・冒険？

2012年1月6日02時46分発行